

事業内容① 都民への普及啓発

令和7年10月30日
第1回ACP推進部会資料

都民が自分自身の希望するケアについて考えられるようになる

◎自分が希望するケアを考える本人

一人一人が自分の人生について「大切なものの」「よりよく生きる」とは何かを考え、医療や介護について、家族や医療介護従事者と話し合い、自分以外の人に希望を共有しておくことで、自分の望まない医療と介護を避け、自己意思が尊重された医療と介護を受ける準備を進めることができるようになる。

◎本人に関わる支援者以外の家族及び関係者

身近な人、大切な人の医療・ケアについて考え、話し合いに参加できるようになる。

- ・ 積極的医療だけでなく、治し支える医療について啓発し、終末期の医療・ケアに対するイメージを都民が持てるようにする。
(選択肢の提示)
- ・ 社会の中で「自分の人生の最終段階」について考え、話すことがポジティブに受け止められる雰囲気の醸成
(本人・家族における話し合いの重要性の認識)
- ・ 自分または家族の医療・ケアについて考え、家族間で話し合う機会の創出
(きっかけづくり)

- 「わたしの思い手帳」を作成・配布し、都民自身が希望する医療・ケアについて考える機会を創出。

※ 5年間で**本編21.1万部、書き込み編21.3万部、(本編・書き込み編計42.4万冊)**を印刷・配布

(1) 病院、在宅療養の場での活用

病院の待合室や資料コーナーなど、患者や家族が自由に手に取れる場所に設置。病院の医師や看護師、在宅医や訪問看護師、ケアマネジャー等が、患者・家族に説明を加えながら渡し、考えることを促したり、相談に乗ったりする。

(2) 市民向け講演会や勉強会での活用

市民がその場で考えたり、参加者らと話し合ったりできる。

- 都内の病院・診療所、介護事業所、医療・介護関係団体、区市町村等へ配布

- 都ホームページ：https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/iryō/iryō_hoken/zaitakuryouyou/acp_booklet

- ACP普及啓発のための**リーフレット**を作成。サンプルを区市町村、各関係団体、病院等に配布。(R 5)

区市町村、医療機関、介護施設等が印刷して活用できるよう、PDFデータを東京都のHPに掲載中。



事業内容① 都民への普及啓発

令和7年10月30日
第1回ACP推進部会資料

○更なる普及啓発方法として「東京都ACPポータルサイト」の設計・開発

- 幅広い世代、特に高齢者を親に持つ若い世代への普及啓発を目的として、「東京都ACPポータルサイト」を新規構築
<内容>「わたしの思い手帳（本編・書き込み編）」の電子ブック化、書き込み編のデジタル化、情報発信プラットフォーム
- 技術審査委員会を経て総合評価方式にてR7.9月受託業者を決定。R8.2月末運用開始予定

令和7年				令和8年		
9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
契約締結 ★				テスト ☆	新サイトオープン ★	
		サイト設計作業 (サイトマップ検討等)		サイト構築作業 (テスト運用含む)		

【参考】R5～6 ACP推進部会の主なご意見

- 入院時や外来時、地域包括支援センターと関わるタイミング等、都民が機会を逃さずACPに取り組めるよう、重層的に普及啓発に取り組むことが大事
- 70代でもスマートなど割と使っているので、ひとつのツールとしてデジタル化はいい考えだと思う。情報共有にも効果的ではないか。
- 70代の高齢者に対し40～50代の子が働きかけすることなどが想定できる。若い人に関心を持ってもらうものとして、意味があるのではないか。
- デジタル化にすることによって使いやすくなる、見やすくなるというのはすごくいいなと思う。書き込み編も端末上で記載しやすくなるだろう。
- 以前書き込んだ内容が消えないような仕組みがあるとよい。
- 一番最後に書いたものが最新版であることが分かるようにできるとよい。
- 書き込み編に書き込んだ自分の思いを、ケアしてくれる人や家族など、一番大事な人に見ておいてもらう必要がある。

○「わたしの思い手帳」、リーフレットを活用した普及啓発（継続）

- DX推進に向けてデジタルツールの活用を進めるため、電子媒体を強化しながら紙媒体の発行部数の見直しを行う。
- 見直しにより幅広い世代への普及を図りつつ、高齢者を中心とした紙媒体へのニーズに引き続き対応していく。
⇒ 上記を踏まえ、冊子申込受付上限数を以下のとおり変更する。

区分	変更前	変更後
都民の方個人	上限10冊 ※本編及び書き込み編同数発送	上限1冊
区市町村（行政機関）	本編、書き込み編ともに上限100冊	本編、書き込み編ともに上限50冊
各団体・事業所	本編、書き込み編ともに上限100冊	本編、書き込み編ともに上限50冊

令和7年度 第1回ACP推進部会での主なご意見

ACPポータルサイトについて

ご意見	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none">ACPは<u>繰り返ししていくもの</u>であるため、作成した日付や、共有する人の変化が見えることも大事。そうした<u>過去の履歴が一連で見える</u>ことが重要。	<ul style="list-style-type: none">作成した日付や共有する人を入力する欄を設けることにより過去の履歴が一連で見ることができるよう、書き込みフォームを設計する。
<ul style="list-style-type: none"><u>誰と一緒に入力（作成）したか</u>と<u>誰と共有したか</u>ということは別であり、重要な情報。また、どの範囲に、いつ展開していくか等、<u>使い方に関する声かけも必要</u>となってくると思う。	<ul style="list-style-type: none">ACPポータルサイトの運用開始に伴い、<u>適切なACP推進に向けた案内（ガイドライン）</u>を作成し、公開する。
<ul style="list-style-type: none">家族等と話しながら書き込むことがメリットであり、今後のケアに生かす、本人の思いを活かすツールであることがポータルサイトに組み込まれるとよいと考える。<u>一方的な送信にならないことが大事。</u>	
<ul style="list-style-type: none">作成の真正性と、内容の真正性の二つの問題が考えられるが、見直しの機会を設けることを前提に、実際に進めてみて、<u>できるだけ多くの方に作っていただく</u>ということを重視した形での決定になってほしいと思う。	<ul style="list-style-type: none">アクセス解析等で利用状況を把握しながら、基本的ルールの追加やシステム改修等を検討し実施していく。

ACPの普及啓発について

ご意見	対応方針（案）
<ul style="list-style-type: none">デジタルデバイスがあると広く周知できる。一方で、紙媒体のニーズがあるので、配送希望は対応いただきたい。	<ul style="list-style-type: none">引き続き紙のニーズにも対応していくとともに、東京都の<u>著作物に係る利用申請の案内</u>（版権利用の周知）を強化していく。